

# 関東大震災と元町公園

3・11 東日本大震災以来、区民の震災対策への関心がますます高まっています。都市防災・災害復興の専門家として、TV解説でも有名な中林一樹・明大教授を迎え、地元の住民有志で震災復興史を中心とした学習会を企画しました。当日は講演のほか、先生への質問、ご意見、ご提案の時間も用意しています。多数のご参加をお待ちしています。

**日時** 8月29日(金) 18:00

18:00~19:00講演 19:00~20:00質疑

※ 入場無料

**会場** 本郷小学校・多目的ホール

**講師** 中林一樹

(明治大学特任教授・日本災害復興学会会長)

**主催** 「元町公園・元町小学校を考える会」

連絡先：岩田俊二 (TEL090-4736-9558) 関川けさ子 (TEL03-3817-8985)

できた復興と

できなかった復興

— 関東大震災と東京大空襲 —

東京は、20世紀の二つの災害を経て形成された。1923年の関東大震災からの帝都復興では、街路整備と土地区画整理事業によるインフラが今日でも東京都心部を支えている。大小の公園整備、学校の不燃化および小公園と校庭の隣接配置によって地区の防災拠点の整備が図られ、旧元町小学校と元町公園は貴重な現存事例である。一方で、当時の郊外では、農地に無計画に住宅が建設され木造密集市街地を形成した。それは東京大空襲で被災し、2万haの土地区画整理を目指したが、震災復興計画は実現せず、その防災問題は今日まで継続している。東京はできた復興とできなかった復興の線の上にある。



中林一樹(なかばやしいつき)

明治大学 政治経済学研究科 特任教授、ひょうご21世紀機構・人と防災未来センター上級研究員、工学博士。日本災害復興学会会長など。

東京都立大学工学研究科博士課程の後、1975~2011年東京都立大学助手、助教授、教授を経て、2011年4月より現職。

1976年の酒田大火の直後に跡地に立ち、都市防災、災害復興を研究テーマとして都市づくりまちづくりを目指してきた。東京都の震災対策の策定に長年かかわってきたとともに、内閣府での首都直下地震対策の検討や国土強靱化懇談会などにも参加。

近著に「広域市町村合併と防災の空洞化」(ミネルバ書房2013)、「危機管理学」(第一法規2014)など。